

ブースター接種が始まります

新型コロナワクチンの3回目となるブースター接種が日本では12月から始まります。阪大病院でも2022年1月開始の予定で準備が行われています。

そもそもなぜ今ブースター接種が議論されているのでしょうか。mRNAワクチンは接種後しばらくの間は高い感染予防効果が確認されていました。しかし、この感染予防効果は時間とともに低下してしまうことが明らかになってきています。10月号でもご紹介しましたが、カタールからの報告ではファイザー社のmRNAワクチンは接種から半年経つと感染予防効果は20%前後にまで落ちてしまうという衝撃的な結果が示されています。日本では医療従事者は2021年3月から接種が始められましたので、11月現在は感染予防効果はほとんど残っていないと考えられます。ぴえんです。

一方で、重症化を防ぐ効果は半年経過しても保たれていると報告されていますので、ワクチン接種者は感染はすることはあっても今も重症化はしにくい状態と考えられます。ただし、この重症化予防効果についても特に高齢者では経時的に落ちてくることが分かってきています。ぴえん超えてばおんです。

こうしたことから、海外ではブースター接種が進められています。イスラエルからの報告では、60歳以上の高齢者ではファイザー社のmRNAワクチンのブースター接種によって感染予防効果は11.3倍、重症化予防効果は19.5倍高くなったとされます。

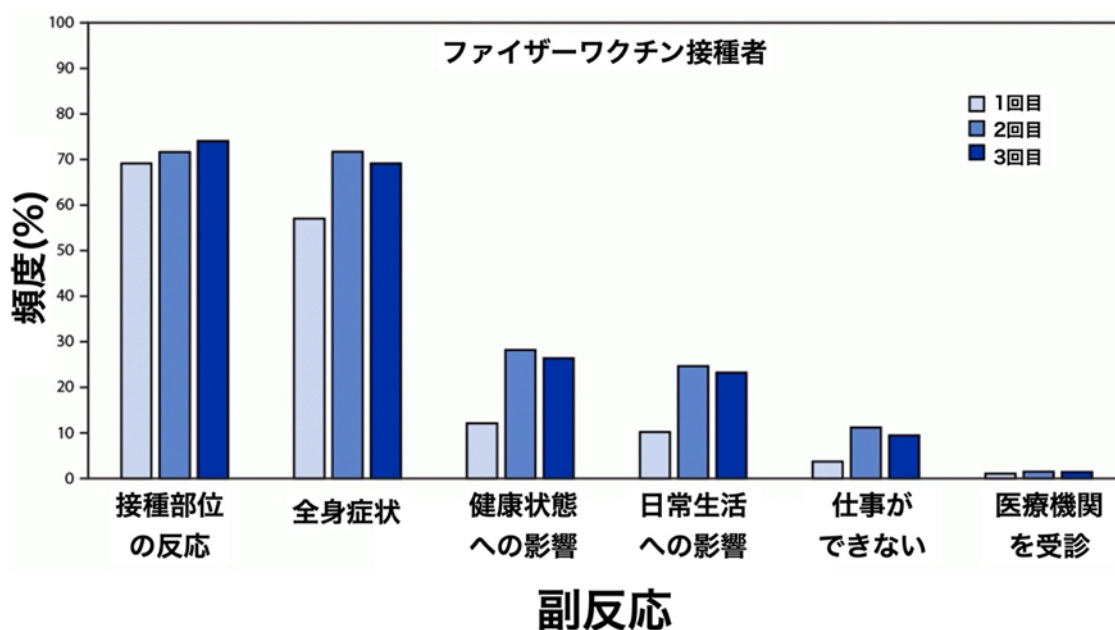


図. ファイザー社のmRNAワクチンの1回目、2回目、3回目の副反応の頻度
(DOI: <http://dx.doi.org/10.15585/mmwr.mm7039e4>より)

1回目よりも2回目の方が副反応が多かったので、3回目はもっとおおいんじゃないかのご心配されている方も多いと思いますが、どうやらそうでもなさそうです。

アメリカからの報告では、ファイザー社もモデルナ社も、1回目よりは2回目の方が全身症状（だるさ、熱、関節痛など）の頻度が高くなりますが、2回目と3回目とを比較すると3回目の方がやや低くなっています。一方、接種部位の反応（かゆみ、痛み、腫れなど）は2回目よりも3回目の方が少し多くなるようです。これらの副反応は接種の翌日にみられる頻度が最も高かったという点も1回目や2回目と同様です。

ぜひ3回目についても接種をご検討ください。